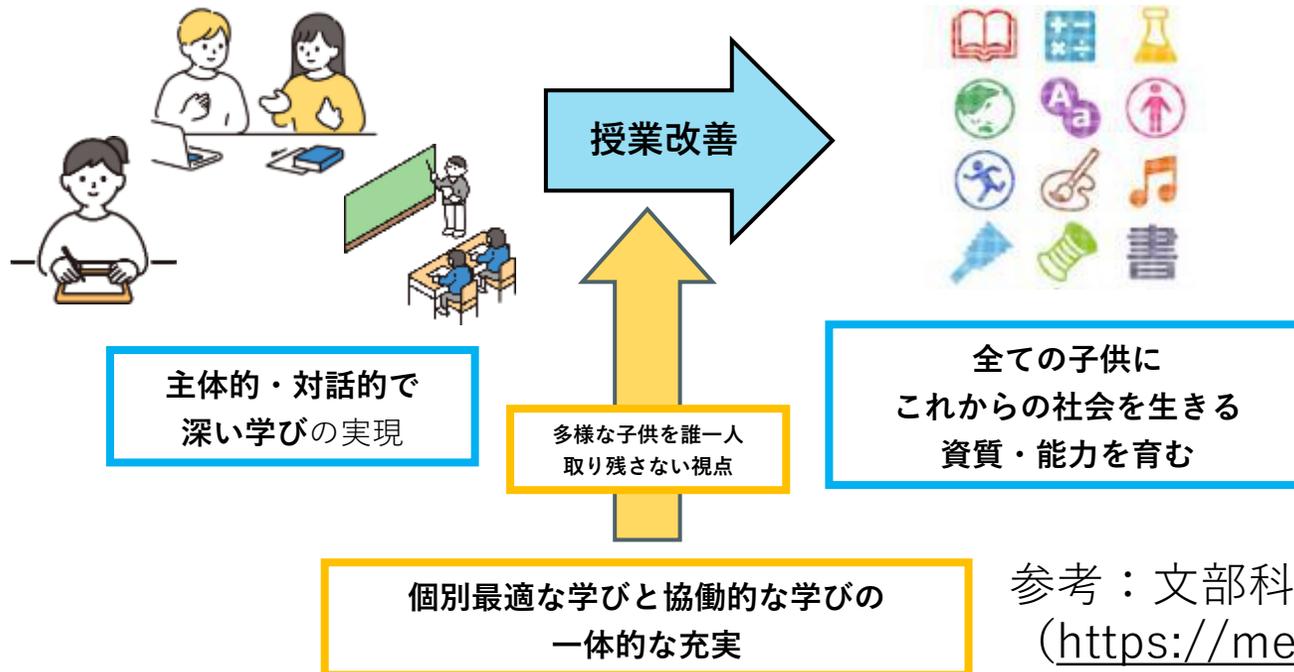


# 算数・数学で始める！

## 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、  
誰一人取り残さない形で、  
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる



作成：千葉県教育庁東葛飾教育事務所指導室

参考：文部科学省「授業づくりnote」  
(<https://mext-curriculum-gov.note.jp/n/nf934cb3fe36d>)

# ポイント①：児童生徒が「課題（問い）」をもつ

協働

個別



【一斉での導入から始める場合は…】

その時間の問題のどこに困ったのか、何を明らかにするのか、児童生徒一人一人が納得している。



【教師の視点】

何人かの発言だけで、問いを設定するのではなく、算数に苦手意識がある児童生徒に目を向けていきましょう。

個別



【個別の学習から始める場合は…】

前時の学習の振り返りや学習計画をもとに、その時間の学習の内容や方法について見通しをもつ。



【教師の視点】

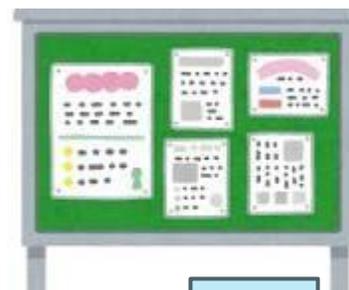
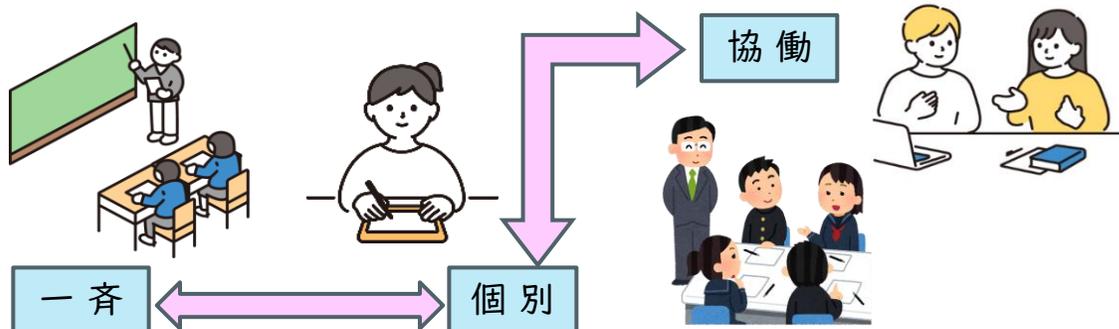
事前に児童生徒の学習状況の把握が必要です。見通しがもてずに学びが停滞した子供や学習計画の見直しが必要な子供に目を向けていきましょう。

# ポイント②：学びの方法を自己決定できる環境づくり

課題（問い）を解決するために、  
学習の方法や環境を自己決定する。



困ったときにどうすればいいのか、  
学習を調整できるようにする。

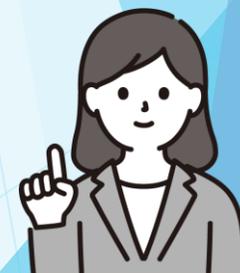


## 子供が決める課題解決の方法

「一人で」「友達と」「先生と」  
「ノートで」「デジタル教材で」「具体物で」

## 困った子供が動き出せる環境

「前時までのノートに」「掲示物に」  
「デジタル教材に」「友達に」「先生に」



## 【教師の視点】

見通しがもてずに困っている児童生徒や深い学びに導きたい児童生徒に対して、  
**教師は「与える」のではなく、「つなぐ」「支援する」という意識をもちましょう。**

児童生徒が主体的に学習材や友達にはたらきかけられるようにしましょう。

# ポイント③：個別の学習状況に応じた協働的な学び

個別の学習に終始して  
いる児童生徒は…。



協働



ICT等による  
「他者参照」  
もできる。

【教師のアプローチ】

(例)

「〇〇さんが違う考えで進めているから  
聞いてみたらどうかな？」

「〇〇さんと考えが似ているから紹介  
し合ってみたらどうかな？」

協働

【協働的な学び】

多様な他者と協力しながら、  
学びを広げる・深める。



「ぼくも長方形に変形したよ」  
「長方形にすればいいんだね。」

「長方形に変形すれば面積が…」



(例)

四角形と三角形の面積【5年】

「〇〇さんは違う図形  
に変形してみたいだよ？  
紹介し合ってみたら？」



協働

【教師の視点】

児童生徒は教材や問題に触れたとき、様々な見え方をします。協働的な学びによって「数学的な見方・考え方」を高めていけるように支援しましょう。

# ポイント④：全員が学びを調整し、振り返られる環境づくり

個別



【適用問題や練習問題の「質」や「量」は…】  
児童生徒は、自分の学習状況に応じた内容の問題に取り組む。



## 【教師の視点】

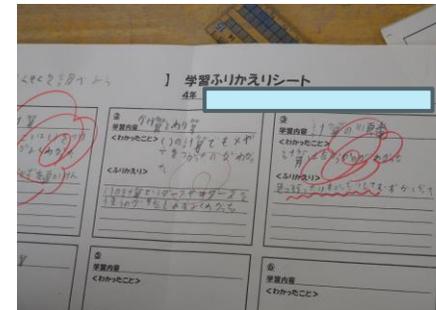
児童生徒の様々な学習状況に応じた問題を教師一人が多種多様に準備することは、負担が大きいです。デジタル教材を活用したり、複数の職員で協力して準備したりするなど、計画的・組織的に取り組みましょう。



【振り返りは…】  
児童生徒が自らの学びを見直し、次の学習につなげられるようにする。

個別

協働



「振り返りシート」の活用

個別

## 【教師の視点】

振り返りの「視点」を児童生徒がもてるように、支援していきましょう。  
(例) 振り返りを相互に見ることができる環境。  
よい視点で振り返った内容の共有。

協働

デジタル機器を活用した振り返りの共有

